

にしのおいけ

社会福祉法人 平成会

西の池学園

住所 東広島市高屋町小谷 5001-5

TEL (082) 434-0405

FAX (082) 434-5599

メール heiseikai@nishinoike.or.jp

HP <http://www.nishinoike.or.jp/>

編集 (社福) 平成会 広報部

発行者 (社福) 平成会理事長 赤坂 秀則

第 75 号

(平成 28 年 1 月 1 日)



秋の大収穫祭
～恒例・じゃんけんぱん大会～の様～

明けましておめでとうございます。昨年は多くの方にお世話になりました。心より感謝申し上げますと存じます。今年も引き続きよろしくお願ひ致します。

西の池学園長の任を受けて14年、あつという間に今日に至っているような気がします。この間、障害福祉分野の制度は目まぐるしく、大きく変わりました。長い間、福祉の標準を支えてきた措置費制度からの変革が続いていますから、余計に変わり様が激しく感じられるのかもしれませんが、利用する立場で使いやすいように変わっていかれば良いのですが、最近改革の名のもと、財政的な理由で福祉予算が削られ、本質に照らして如何なものかと思える改正が続いており、個人的には少々違和感を覚えます。とは言え、ないものねだりという訳にもいきませんが、現状を正確に捉えた上で、制度を見据え5年、10年後にどうあるべきかを思い巡らし、成果に繋がりたいと考えています。

数年前から、西高屋地区に将来大きな役割が担える拠点の整備ができないかと検討してきましたが、今年本格的に準備に取り掛かります。これまで練ってきた構想を一つずつ着実に実行に移していきたく思っています。法人の規模を拡大することを目指している訳ではなく、利便性のよい場所に今の法人機能の一部を移転し、広域的に多くの方々に利用してもらえようにならばという発想です。思い描いているものが整うまで3、5年かかると思いますが、様々なニーズに応え、地域の拠点として使命が果たせるよう、法人の総力を結集し取り掛かります。引き続きご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。年頭のご挨拶とさせていただきます。

理事長 赤坂秀則

拠点創設について

「笑顔があふれる場所を目指して」

この度、同一法人内の多機能型事業所あさひ職員との交流実習をする機会がありました。「デイセンターこだま」では、具体的な支援方法や技術を伝えるだけでなく、「デイセンターこだま」を伝えることに心掛けました。

こだまの職員間で、いくつ共々有し、続けて取り組んでいることの中に、「利用者との会話をする時は、ただ話を聞くだけでなく、目線を合わせて利用者によりやすい方法で行うこと」「食事の介助は、会話をしながら楽しい雰囲気の中で行うこと」「利用者の送り出しは、「今日もありがとう」という感謝の気持ちと、「明日もまた元気になって下さい」という希望の意味を込め、両手で手を振ってみなさんを見送っていること」などがあります。

これらの取り組みを職員間で共有しながら続けてきたことで、少しずつ利用者みなさんの方から心を開いてくれる機会や、笑顔で応えてくれる時間が増えてきたように感じています。

私たち支援者には、それぞれの個性や支援に対する思いがあります。しかし支援の根底に、その事業所が持つ「共通する思い」を育てていくことで、自然と目指していきたく在り方が育っていくのではないかと感じています。今回の職員の交流実習を通じて、「こだまに共通する思い」を伝えたいこと、それぞれの事業所が大切にしている思いを形にすることに繋がっていかれたらと思います。

そして最終的には、利用者の笑顔が溢れる場所になっていけたら嬉しいですね。

デイセンターこだま 主任支援員 内田 亘



お見送りの風景「今日もありがとう」「明日も元気で来て下さい」いつもかわらぬ、想いをのせて...

あおぞら工房

『企業と連携して就労支援』

あおぞら工房では、利用者と職員が企業に出向いて作業をする「施設外就労」に取り組んでいます。昨年7月からは、高屋町の広島精研工業㈱で3名の利用者が、製品の通い箱を整理する作業を行っています。通い箱から緩衝材や伝票を抜いてパレットに積んでいく作業に戸惑ってばかりでした。会社の方が作業の動線を考えてコンベアを配置してくださり、暑さ対策に扇風機を設置する等、作業環境を整えて頂いたおかげで作業に集中できるようになり、今では「今日は〇〇個できた」と生産数が上がると嬉しそうに話してくれます。



・広島精研工業㈱の配慮で、動きやすい作業環境がもたらされています。

社員の方から、「この作業をあおぞら工房が行うことで他の仕事に時間を充てることができるようになり、とても助かっている。これからもよろしく」と言っていたら、利用者さんも会社の役に立っていることが実感でき、とてもやりがいを感じているようです。

企業にとっても利用者さんにとっても、お互いを支え合う関係が出来たことはとてもうれしいことです。今後、企業と施設が連携して利用者の就労を支える「施設外就労」の取り組みを、更に広げていきたいと思っています。

あおぞら工房 支援員 上川 博人

デイセンターこだま

『笑顔があふれる場所を目指して』

この度、同一法人内の多機能型事業所あさひ職員との交流実習をする機会がありました。「デイセンターこだま」では、具体的な支援方法や技術を伝えるだけでなく、「デイセンターこだま」を伝えることに心掛けました。

こだまの職員間で、いくつ共々有し、続けて取り組んでいることの中に、「利用者との会話をする時は、ただ話を聞くだけでなく、目線を合わせて利用者によりやすい方法で行うこと」「食事の介助は、会話をしながら楽しい雰囲気の中で行うこと」「利用者の送り出しは、「今日もありがとう」という感謝の気持ちと、「明日もまた元気になって下さい」という希望の意味を込め、両手で手を振ってみなさんを見送っていること」などがあります。

これらの取り組みを職員間で共有しながら続けてきたことで、少しずつ利用者みなさんの方から心を開いてくれる機会や、笑顔で応えてくれる時間が増えてきたように感じています。

私たち支援者には、それぞれの個性や支援に対する思いがあります。しかし支援の根底に、その事業所が持つ「共通する思い」を育てていくことで、自然と目指していきたく在り方が育っていくのではないかと感じています。今回の職員の交流実習を通じて、「こだまに共通する思い」を伝えたいこと、それぞれの事業所が大切にしている思いを形にすることに繋がっていかれたらと思います。

そして最終的には、利用者の笑顔が溢れる場所になっていけたら嬉しいですね。

デイセンターこだま 主任支援員 内田 亘